

# 第2期中期目標期間の業務実績に関する評価結果

第2期（平成24年4月1日～平成28年3月31日）

平成28年8月

地方独立行政法人那覇市立病院評価委員会

## 目 次

1 全体評価	・・・・・・・・・・	1 ページ
2 大項目評価		
第1「市民に提供するサービスその他の業務の質の向上」に関する大項目評価	・・・・・・・・・・	3 ページ
第2「業務運営の改善及び効率化」に関する大項目評価	・・・・・・・・・・	12 ページ
3 参考資料		
第2 期中期目標期間中の財務諸表数値の推移	・・・・・・・・・・	別 紙

## 全体評価

全体として中期目標どおり達成している

### 第1 市民に提供するサービスその他の業務の質の向上

事業年度評価結果				第2期中期目標 期間の評価
H24	H25	H26	H27	
A	A	A	B	A

### 第2 業務運営の改善及び効率化

事業年度評価結果				第2期中期目標 期間の評価
H24	H25	H26	H27	
A	A	A	B	A

- 第2期中期目標は、平成24年度から平成27年度までの4か年度をその期間としており、その間、市民の医療需要の変化に的確に対応し、救急医療、小児医療、産科医療をはじめ市民が求める地域に根ざした高度な医療の提供に努め、医療水準の向上を図り、あわせて経営の効率化等に積極的に取り組むことを目標に、診療機能の充実と患者サービスの向上に取り組んでいる。

第2期中期目標期間においても、地方独立行政法人制度のメリットである自律性・透明性を発揮し、市民が求める安心・安全な医療や高度医療を提供するため地域医療の確保と医療の質の向上等に努め、市民の健康の維持・増進に貢献するよう取り組んだ。また、理事長を中心に職員が一丸となって病院運営を行うとともに、さらなる改善を図り業務、執行体制の効率化に努めた結果、地域医療を担う中核病院として、診療機能の充実や患者サービスの向上が図られ、引き続き安定した病院経営についても成果が認められた。なお、期間後半においては、診療報酬の改定や消費税引き上げ等のいくつかの要因により、地方独立行政法人化して初の赤字を計上するなど、利益の減少があったが、全体として中期目標どおり達成していると評価できる。

- 第1の「市民に提供するサービスその他の業務の質の向上」の面では、365日24時間小児科医及び脳神経外科医を配置した救急医療体制を維持、医療スタッフの専門性及び医療技術の向上を図り、医療の質の確保に努めている。また、地域医療支援病院として、積極的な紹介及び逆紹介を行うとともに、地域連携パスの利用を促進するなど、地域の医療機関との連携の定着に取り組んでいることを評価する。

(特筆すべき取り組み)

#### 1 診療機能の充実

- ・小児科医及び脳神経外科医を配置した365日24時間救急医療体制の維持
- ・地域がん診療連携拠点病院として、がん診療連携パスの利用を促進
- ・地域連携パスの利用を促進するなど、地域の医療機関との連携の定着
- ・DMATチームを編成、医療救援活動の支援を行うための体制を整備
- ・琉球大学と連携した教育研修の充実、医療スタッフの資格取得の支援など、専門性及び医療技術の向上を促進
- ・クリニカルパスの活用を図ることによる効果的な医療の提供
- ・院内感染症対策を徹底することにより、安心・安全で良質な医療を提供

#### 2 患者サービスの向上

- ・敷地内禁煙を継続し、快適な院内環境を整備
- ・外国人観光客や急病患者に対応したクレジットカード等の取り扱いなど、受診者の利便性向上のための取り組み
- ・ボランティア室を設置するなど、ボランティアとの協働を推進、院内緑化に取り組むことで、患者や来院者に快適な環境を提供

- 第2の「業務運営の改善及び効率化」の面では、施設基準及び各種加算を積極的に取得して、診療単価の向上を図るとともに、後発医薬品の採用をはじめとする費用節減に努めた結果、中期目標期間において利益を確保している。

第2期中期目標期間の当期純利益				(単位：百万円)	(単位：百万円)
H24	H25	H26	H27	第2期中期目標期間の総利益	第2期中期計画策定時の利益見込
581	446	70	▲171	926	183

(特筆すべき取り組み)

- ・適正な後発医薬品の採用及び入れ替え促進による薬品購入費の節減
- ・DPC/PDPSの機能評価係数を高めるよう努めるとともに、各種施設基準の取得による診療単価の向上
- ・診療報酬請求事務の強化による、請求漏れ及び減点の防止
- ・医療費のクレジットカード支払いの導入による収入の確保

- 課題・改善を期待する事項について

次期中期目標期間に向けての課題及び改善事項は次のとおりである。

- ・平成27年度は地方独立行政法人化して初の単年度赤字決算であり、今後は医業収益の向上と給与費及び材料費等の費用削減の面において、より一層努力されたい。
- ・病院建替については地域医療構想を踏まえて、設立団体との連携を密にし、早期に取り組んでいただきたい。
- ・医療スタッフの研修等を充実し、専門性及び医療技術の向上を図るとともに事務部門においては、病院経営の専門的知識や経営感覚に優れた人材を育成されたい。
- ・運営費負担金については、繰り出し基準について設立団体と協議し、市立病院としての役割をしっかりと果たされたい。

- その他

地方独立行政法人制度の特徴を最大限に発揮し、理事長、職員が一丸となって安定した病院運営を維持し、また、市立病院としての役割を着実に果たしており、その成果及び努力を評価する。

第2期中期目標期間の業務実績については、診療機能の充実及び患者サービスの向上、業務運営の改善及び効率化の面で一定の成果を上げており、引き続き第3期中期目標期間においても、市立病院としての使命を果たし、あわせて経営の効率化等に積極的に取り組み、社会情勢や地域医療構想等の医療を取りまく様々な環境の変化に柔軟に対応していただきたい。

第1 市民に提供するサービスその他の業務の質の向上		事業年度評価結果				中期目標 期間の評価										
		H24	H25	H26	H27											
		A	A	A	B	A										
中期目標	中期計画	中期目標期間の実績														
<p>第2 市民に提供するサービスその他の業務の質の向上に関する事項</p> <p>1 診療機能の充実</p> <p>(1) 救急医療体制の充実・強化</p> <p>地域医療に貢献するため、365日24時間救急医療体制の維持・充実を図ること。また、救急搬送の受け入れをスムーズに行えるよう消防や関係機関と連携を強化すること。</p>	<p>第1 市民に提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するためとるべき措置</p> <p>1 診療機能の充実</p> <p>(1) 救急医療体制の充実・強化</p> <p>① 救急医療の充実・強化</p> <p>(ア) 地域の医療機関等と連携して、365日24時間救急医療体制の維持・充実を図る。</p> <p>(イ) 脳卒中センターを開設し、脳卒中疾患患者の治療を強化する。</p> <p>② 消防や関係機関との連携強化等</p> <p>(ア) 消防との連絡調整会議や、救急救命士に対する教育実習等を実施し、連携を強化する。</p> <p>(イ) 救急搬送の受け入れを円滑に行うため、地域住民に適正な救急受診について啓発を行う。</p>	<p>●救急医療体制の維持・充実</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>開業医と琉球大学小児科の応援により365日24時間救急医療体制を実施した。【H24～】</li> </ul> <p>●脳卒中疾患治療の強化</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>平成24年に脳卒中センター開設。医師の常駐やMRI等検査および血栓溶解療法(超急性期脳卒中加算*)や緊急手術等の即応的な治療に対応した。【H24～】</li> <li>(*)当該加算は施設基準を満たし、脳梗塞と診断された患者に対し発症後4.5時間以内に組織プラスミノゲン活性化因子(rt-PA)を投与した場合に算定できる。</li> </ul> <p>●消防との連携強化等</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>主に南部地区MC(メディカルコントロール)協議会を通じて連絡を取り合う。また就業前実習・再教育実習・気管挿管実習の各種実習について、定期的の実施した。【H24～】</li> </ul> <p>●地域住民への救急受診啓発</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>広報誌「きざはし」を年4回発行し、登録医、近隣医療機関、各市町村の健康推進課、那覇市自治会に発送して適正な情報を提供した。【H24～】</li> <li>ホームページにおいて、救急診療体制ページを設け、救急に関するリンク集も掲載し適正な救急受診について啓発に努めた。</li> </ul> <p>急病センター患者数(単位:人)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>24年度</th> <th>25年度</th> <th>26年度</th> <th>27年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>					区分	24年度	25年度	26年度	27年度					
区分	24年度	25年度	26年度	27年度												

		患者数	47,905	46,641	49,551	47,352		
<p>(2) 高度医療の充実</p> <p>①高度医療の充実 地域の中核的急性期病院として優秀な医療スタッフの確保にめ、高度医療の充実を図ること。</p> <p>②医療機器等の計画的な更新・整備 市立病院に求められる医療を提供出来るよう、必要な医療機器等を計画的に更新・整備をすること。</p> <p>(3) がん医療体制の強化 地域がん診療連携拠点病院として、がん医療の水準向上に努め、患者や家族からの相談支援の充実を図るとともに、地域住民にがんに関する情報を提供し、その普及・啓発に努め、がん診療体制の強化を図ること。</p>	<p>(2) 高度医療の充実</p> <p>①高度医療の充実 地域の中核的急性期病院として、優秀な医療スタッフの確保に努めるとともに、がん治療やその他の高度医療を充実するため、医師等の増員とスキルアップを図る。</p> <p>②医療機器等の計画的な更新・整備 中期計画の期間における資金計画を策定し、計画的に次の医療機器等の更新・整備を進める。 (ア) 血管造影装置 (イ) CT、MRI (ウ) 電子カルテ</p> <p>(3) がん医療体制の強化</p> <p>①地域がん診療連携拠点病院としての機能の充実 (ア) 沖縄県がん診療連携拠点病院との連携を強化し、がん診療連携パスの利用を促進する。</p> <p>(イ) がん医療の水準向上のため、がん診療に従事する医師等に対する研修会を開催する。</p>	<p>●高度医療の充実</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>脳神経外科専従の後期研修医に対して動脈瘤血栓術、ステント留置等の血管内治療の指導を行った。【H24～】</li> <li>網膜硝子体手術を専門に行う医師を招聘し、未熟児網膜症等の手術を行った。【H24～H25】</li> <li>腹腔鏡下手術および内視鏡手術について専門医育成を行った。【H26～】</li> <li>平成27年度の腹腔鏡下手術及び内視鏡下手術の件数は、前年度と比較し110件増加し808件施行した。</li> </ul> <p>●医療機器等の計画的な更新・整備</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>頭部用血管造影X線診断装置を更新した。【H24】</li> <li>デジタル乳房X線装置システム更新、医用画像システムを更新した。【H25】</li> <li>電子カルテシステムの更新に向けて開発開始した。【H26】(本格稼働は平成27年5月)</li> <li>CTについて、2台のうち古い方の1台は現在の医療水準からは機能的に劣っている点や故障頻度も年々増加していることから次年度入れ替えることに決定した。【H27】</li> </ul> <p>●がん診療連携パスの利用促進</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>5大がん地域連携パスの適用件数は、平成24年度～平成27年度で計222件、那覇市立病院の連携医療機関は41件</li> </ul> <p>●がん診療従事者に対する研修会の開催</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>平成24年度～平成27年度で計39回開催した。</li> </ul>	入院患者数	4,138	4,397	4,723	4,301	
			外来患者数	43,767	42,244	44,828	43,051	
			うち小児科患者数	18,636	18,583	17,293	17,055	
			救急車搬送者数	4,257	4,208	3,879	4,062	

	<p>(ウ) 地域がん登録を推進する。</p> <p>(エ) 緩和ケア認定看護師等の増員に努め、他の機関と連携し、緩和ケアの充実を図る。</p> <p>②がんに関する情報の市民への普及・啓発 地域住民に対し、がんフォーラム等の講演会を継続して開催する。また患者図書館を設置し、がんに関する情報の提供に努める。</p>	<p>●地域がん登録の推進</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>平成 24 年が 856 件、平成 25 年が 884 件、平成 26 年が 907 件、平成 27 年が 846 件であった。専従職員を中心に登録内容のダブルチェックを行い精度向上に努めた。</li> </ul> <p>●緩和ケアの充実</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>化学療法認定看護師や、がん看護専門看護師について看護師に教育課程の履修を行った。</li> <li>平成 27 年度実績は、認定看護師の資格取得者 2 名、受講修了者 3 名であった。</li> </ul> <p>●がんに関する情報の普及・啓発</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>地域住民に対し、がんフォーラム 5 回、講演会 3 回、乳がん塾を 12 回開催。また平成 26 年度は患者サロンを 12 回開催した。</li> <li>平成 27 年度は、がんフォーラム、講演会等 7 回、患者サロンを 12 回実施した。牧志駅ほしぞら図書館へがん関連図書 96 冊を寄贈した。</li> </ul>																				
<p>(4) 地域連携の推進・強化 地域医療支援病院として地域で完結する切れ目のない医療を提供するため、地域の医療機関との連携・強化を推進すること</p>	<p>(4) 地域連携の推進・強化 地域医療支援病院として地域で完結する切れ目のない医療を提供するため、次のように地域の医療機関との連携を強化する。</p> <p>①地域医療支援病院運営委員会を定期的に開催する。</p> <p>②地域連携交流会を開催する。</p> <p>③登録医との定例会を開催する。</p> <p>④地域医療支援病院の維持を図り、開放病床の積極的な利用を促進する。</p> <p>⑤地域連携パスの利用を促進する。</p>	<p>●H24 年から H27 年まで地域医療支援病院運営委員会を年 2 回開催した。</p> <p>●H24 年から H27 年まで地域連携交流会を年に 1 回開催した。</p> <p>●H24 年から H27 年まで登録医との定例会を年に 1 回開催した。</p> <p>●紹介率 (単位：%)</p> <table border="1" data-bbox="1285 1177 2078 1439"> <thead> <tr> <th>区 分</th> <th>24 年度</th> <th>25 年度</th> <th>26 年度</th> <th>27 年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>紹介率</td> <td>53.3</td> <td>65.8</td> <td>71.9</td> <td>73.7</td> </tr> <tr> <td>逆紹介率</td> <td>38.7</td> <td>50.2</td> <td>59.6</td> <td>62.4</td> </tr> <tr> <td>開放病床利用率</td> <td>85.68</td> <td>96.6</td> <td>102.5</td> <td>66.6</td> </tr> </tbody> </table> <p>●地域連携パスの利用促進</p>	区 分	24 年度	25 年度	26 年度	27 年度	紹介率	53.3	65.8	71.9	73.7	逆紹介率	38.7	50.2	59.6	62.4	開放病床利用率	85.68	96.6	102.5	66.6
区 分	24 年度	25 年度	26 年度	27 年度																		
紹介率	53.3	65.8	71.9	73.7																		
逆紹介率	38.7	50.2	59.6	62.4																		
開放病床利用率	85.68	96.6	102.5	66.6																		

		<ul style="list-style-type: none"> <li>おきなわ津梁ネットワーク急性心筋梗塞地域連携パス開始。 【H25】</li> <li>大腿骨近位部骨折地域連携パスについて、急性期 3 病院（那覇市立病院・南部医療センター・赤十字病院）と回復期 8 ヶ所で合同会議を 3 回開催。【H25～】</li> <li>平成 27 年度の大腿骨頸部骨折パス減少原因は、麻酔科医の減員による緊急手術対応困難で一時患者を他院へ紹介し件数減となった。がん連携パスは、パスの受け入れクリニックが少なくなり適応件数が減少した。</li> </ul> <p>地域連携パスの利用実績（単位：件）</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>実 績</th> <th>24 年度</th> <th>25 年度</th> <th>26 年度</th> <th>27 年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>脳卒中パス</td> <td>208</td> <td>99</td> <td>107</td> <td>105</td> </tr> <tr> <td>大腿骨頸部骨折パス</td> <td>110</td> <td>122</td> <td>62</td> <td>43</td> </tr> <tr> <td>がん診療連携パス</td> <td>67</td> <td>50</td> <td>60</td> <td>46</td> </tr> <tr> <td>P C I パス</td> <td>18</td> <td>23</td> <td>7</td> <td></td> </tr> <tr> <td>急性心筋梗塞パス</td> <td></td> <td>17</td> <td>48</td> <td>49(*)</td> </tr> </tbody> </table> <p>(*)H27 年度より PCI パスは急性心筋梗塞パスに統一。</p>	実 績	24 年度	25 年度	26 年度	27 年度	脳卒中パス	208	99	107	105	大腿骨頸部骨折パス	110	122	62	43	がん診療連携パス	67	50	60	46	P C I パス	18	23	7		急性心筋梗塞パス		17	48	49(*)
実 績	24 年度	25 年度	26 年度	27 年度																												
脳卒中パス	208	99	107	105																												
大腿骨頸部骨折パス	110	122	62	43																												
がん診療連携パス	67	50	60	46																												
P C I パス	18	23	7																													
急性心筋梗塞パス		17	48	49(*)																												

<p>(5) 市の医療施策との連携等</p> <p>①保健・福祉行政との連携</p> <p>市民の健康増進を図るため、市や関係機関と連携・協力して特定健診等の各種健康診断を実施すること。</p> <p>平成 25 年度に設置が予定されている那覇市保健所（仮称）と連携し、感染症対策などに協力すること。</p>	<p>(5) 市の医療施策との連携等</p> <p>①保健・福祉行政との連携</p> <p>市民の健康増進を図るため、市等の関係機関と連携・協力して特定健診等の各種健診を実施する。</p> <p>また、平成 25 年度に設置が予定されている那覇市保健所（仮称）と情報交換を行い、感染症対策などの施策との連携を図る。</p>	<p>●検診センターでの人間ドック等の実績（単位：人）</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>コース</th> <th>24 年度</th> <th>25 年度</th> <th>26 年度</th> <th>27 年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>人間ドック</td> <td>3,815</td> <td>4,223</td> <td>4,194</td> <td>4,432</td> </tr> <tr> <td>特定健診</td> <td>2,474</td> <td>2,774</td> <td>2,788</td> <td>2,784</td> </tr> <tr> <td>がん検診</td> <td>923</td> <td>940</td> <td>987</td> <td>844</td> </tr> <tr> <td>一般検診他</td> <td>2,235</td> <td>2,619</td> <td>2,669</td> <td>2,989</td> </tr> <tr> <td>合 計</td> <td>9,447</td> <td>10,556</td> <td>10,638</td> <td>11,049</td> </tr> </tbody> </table> <ul style="list-style-type: none"> <li>特定保健指導を開始した。【H24】</li> <li>健診センター内にデジタル乳房 X 線装置を設置。また小学児童の結核罹患が判明したため那覇市保健所と連携し、児童が通学していた学校の児童と職員を対象に接触者検診のため採血検査を実施した。【H25】</li> </ul>	コース	24 年度	25 年度	26 年度	27 年度	人間ドック	3,815	4,223	4,194	4,432	特定健診	2,474	2,774	2,788	2,784	がん検診	923	940	987	844	一般検診他	2,235	2,619	2,669	2,989	合 計	9,447	10,556	10,638	11,049
コース	24 年度	25 年度	26 年度	27 年度																												
人間ドック	3,815	4,223	4,194	4,432																												
特定健診	2,474	2,774	2,788	2,784																												
がん検診	923	940	987	844																												
一般検診他	2,235	2,619	2,669	2,989																												
合 計	9,447	10,556	10,638	11,049																												



<p>②災害時における医療協力  災害時やその他の緊急時において医療拠点としての役割を担うとともに、那覇市の地域防災計画、新型インフルエンザ等の健康管理危機対策に適切に対応すること。  また、他の自治体等において大規模災害が発生した場合は、災害派遣医療チームを派遣するなど、医療救護活動の支援に努めること。</p> <p>③市民への情報の提供・発信  市民に対してホームページやマスコミ等を活用した医療情報の提供など、保健医療情報の発信及び普及啓発を推進するとともに、病院の診療機能・運営状況の発信の充実に努めること。</p>	<p>②災害時における医療協力  災害時等には、医療拠点としての役割を担うとともに、那覇市の地域防災計画や新型インフルエンザ等の健康危機管理対策に適切に対応する。  また、他の自治体等において大規模災害が発生した場合は、災害派遣医療チームを派遣するなど、医療救護活動の支援に努める。市が実施する防災訓練へ参加し、災害に対応できる体制を整える。</p> <p>③市民への情報の提供・発信  (ア) 市民に対してホームページやマスコミ等を活用し、医療情報を提供する。</p> <p>(イ) 医療講演会を開催する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 保健所への感染症発生報告を週報と月報で定期的に行った。【H26】</li> <li>・ 健診センターにおいて、当院医師、認定看護師、理学療法士等を講師とし健診受診者向けミニ講座を開催。開催回数:21回/年、受講者:465名の実績であった。【H27】</li> </ul> <p>●災害時における医療協力</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ DMATチームの編成および備品設置【H24】</li> <li>・ 沖縄県と県下15のDMATとの間に「沖縄DMATの派遣に関する協定」を締結。【H25】</li> <li>・ エボラ出血熱対応マニュアルの作成とエボラ患者来院時のシミュレーション実施。【H26】</li> <li>・ 那覇市総合防災訓練や沖縄県総合防災訓練への病院スタッフ派遣。【H24～】</li> </ul> <p>●ホームページ等を活用した医療情報提供</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 広報誌の発行は年4回。病院ホームページおよび広報誌「きざはし」をリニューアル。診療データの公表や、地域住民のための講演会や研修会等の案内、その他お知らせなど実施。広報誌については一般の方にも読みやすいようにデザインを変更した。【H24】</li> <li>・ 健診センターホームページをリニューアルし、ホームページからの予約が可能となったほか、生活習慣病シミュレーション機能や各種検査説明の追加などを行った。【H25】</li> </ul> <p>●医療講演会の開催</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 地域住民への情報提供の一環として「おでかけゆんたく会」を計9回開催した。【H24～】</li> </ul>
<p>(6) 専門性及び医療技術の向上  医療スタッフの研修等を充実し、専門性及び医療技術の向上を図ること。</p>	<p>(6) 専門性及び医療技術の向上</p> <p>①琉球大学と連携して、初期臨床研修医及び後期研修医の教育研修の充実に努め、また、指導医、後期研修医に対し、県内外の先進的な医療機関への派遣研修を実施する。</p>	<p>●琉球大学と連携した教育研修の充実</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 琉球大学医学部附属病院の初期研修医に救急科、内科、皮膚科、放射線科にて研修を実施した。【H25】</li> <li>・ 琉球大学卒業予定の学生をクリニカルクラークシップ生として受け入れ、内科、眼科、麻酔科、皮膚科、整形外科、耳鼻咽喉科、泌尿器科で実習を行った。【H25～】</li> <li>・ 初期研修医2名、後期研修医2名が琉球大学医学部附属病院にて3ヶ月研修を実施、また自治医科大学へも1名2ヶ月派遣研</li> </ul>

	<p>②学会参加、論文発表を推進する。</p> <p>③看護職の専門性向上のため、認定看護師及び専門の資格取得を支援する。</p> <p>④薬剤師、放射線技師、検査技師その他のコメディカルについても、各部門で専門性に応じた研修等を実施し、認定及び専門の資格取得を支援する。</p>	<p>修を実施した。【H26】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 琉球大学医学部の臨床実習生 43 名を受け入れた。【H26～】</li> <li>・ 平成 27 年度の派遣・研修実績は合計 11 名であった。【H27】</li> </ul> <p>●学会参加、論文発表の推進</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 平成 24 年～平成 27 年までの学会参加者は計 1,370 名</li> </ul> <p>●看護職への資格取得および研修の推進</p> <p>平成 24 年（資格取得）4 種 計 6 名（研修）3 種 3 名  平成 25 年（資格取得）2 種 計 10 名（研修）5 種 7 名  平成 26 年（資格取得）2 種 計 2 名  平成 27 年（資格取得）2 種 計 2 名（資格取得結果待ち）2 種 計 3 名</p> <p>平成 27 年度日本助産評価機構による助産実践能力習熟階段（クリニカルラダー）レベルⅢの認証が 11 名であった。</p> <p>●コメディカルへの資格取得および研修の推進</p> <p>平成 24 年（資格取得）23 種 計 71 名（研修）27 種 253 名  平成 25 年（資格取得）22 種 計 83 名（研修）23 種 370 名  平成 26 年（資格取得）10 種 計 67 名（研修）12 種 952 名  平成 27 年（資格取得）13 種 計 25 名（研修）24 種 304 名</p>																				
<p>(7) 医療の標準化と最適な医療の提供効果的な医療を提供できるよう、クリニカルパス（疾患別に退院までの治療内容を標準化した計画表のこと。）の活用を図ること。</p> <p>(8) 安心・安全で質の高い医療の提供</p> <p>①医療安全対策の徹底</p> <p>安心・安全で良質な医療を提供するため、院内の感染症対策及び医療事故防止対策を徹底し、医療安全の確保を図ること。</p>	<p>(7) 医療の標準化と最適な医療の提供効果的な医療を提供できるよう、診療ガイドライン等を参考にしたクリニカルパス（疾患別に退院までの治療内容を標準化した計画表のこと。）を作成し、活用を図る。</p> <p>(8) 安心・安全で質の高い医療の提供</p> <p>①医療安全対策の徹底</p> <p>安心・安全で良質な医療を提供するため、院内感染症対策及び医療事故防止対策を徹底する。</p>	<p>●年度別クリニカルパス運用実績</p> <table border="1" data-bbox="1285 831 2078 1118"> <thead> <tr> <th>区 分</th> <th>24 年度</th> <th>25 年度</th> <th>26 年度</th> <th>27 年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>クリニカルパス適用患者数</td> <td>3,272 人</td> <td>3,589 人</td> <td>3,589 人</td> <td>3,794 人</td> </tr> <tr> <td>クリニカルパス種類数</td> <td>135</td> <td>143</td> <td>112</td> <td>140</td> </tr> <tr> <td>クリニカルパス適用率</td> <td>26.94%</td> <td>30.35%</td> <td>33.9%</td> <td>32.5%</td> </tr> </tbody> </table> <p>●医療安全対策の徹底</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 感染防止対策委員会および ICT（感染管理チーム）・リンクナース会議を月 1 回開催、現場の感染対策の問題点を抽出し、改善につなげた。また連携Ⅰの施設（南部徳洲会・協同病院）との相互チェックや連携Ⅱの施設（大道中央病院・与那原中央病院）との合同カンファレンスを実施、感染対策に関する情報交換や感染対策の改善を図った。【H24～】</li> <li>・ 全職員に対しインシデント・アクシデント報告の有効性への理解を深めるよう周知し、リスクマネジメントシステムも活用し</li> </ul>	区 分	24 年度	25 年度	26 年度	27 年度	クリニカルパス適用患者数	3,272 人	3,589 人	3,589 人	3,794 人	クリニカルパス種類数	135	143	112	140	クリニカルパス適用率	26.94%	30.35%	33.9%	32.5%
区 分	24 年度	25 年度	26 年度	27 年度																		
クリニカルパス適用患者数	3,272 人	3,589 人	3,589 人	3,794 人																		
クリニカルパス種類数	135	143	112	140																		
クリニカルパス適用率	26.94%	30.35%	33.9%	32.5%																		

<p>②患者中心の医療の実践        患者が自ら受ける医療の内容に納得し、自分に合った治療法を選択できるようにすること。</p> <p>③科学的な根拠に基づく医療の推進        質の高い医療を提供するため、科学的な根拠に基づく医療（EBM）を推進すること。</p>	<p>②患者中心の医療の実践        患者の信頼と納得に基づいた医療を実践する。        (ア) インフォームド・コンセントの継続</p> <p>(イ) セカンドオピニオン体制の維持</p> <p>③科学的な根拠に基づく医療（EBM）の推進        診療ガイドラインに基づいた診療を実践することにより、科学的な根拠に基づく質の高い医療を推進する。</p>	<p>て報告を推奨するなど情報収集に努めた。【H24～】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>医療安全対策委員会を月1回開催、医療安全対策サポートチームにおいて、根本原因分析（RCA）を年10回行った。【H24～】</li> <li>医療事故調査制度施行を受け、医療事故該当判断早見表を作成し、運用体制を整えた。【H27～】</li> </ul> <p>●インフォームド・コンセントの継続</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>入院準備センターの充実などによりインフォームド・コンセント体制の継続が図られた。また利用者からも説明や手続きに満足との声が多く寄せられた。</li> <li>外来では、看護師で診察後に気になった点やもう少し説明が欲しいという患者に対して声かけをできる限り行っている。</li> </ul> <p>●セカンドオピニオン体制の維持</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>ホームページや電話等でセカンドオピニオンについて情報を提供し、希望者には窓口で相談、紹介を行う。</li> </ul> <p>セカンドオピニオン実績</p> <table border="1" data-bbox="1279 844 1924 983"> <thead> <tr> <th></th> <th>24年度</th> <th>25年度</th> <th>26年度</th> <th>27年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>件数</td> <td>15件</td> <td>22件</td> <td>25件</td> <td>22件</td> </tr> </tbody> </table> <p>●EBMの推進</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>当院でもEBMを重視し、全科において診療ガイドラインを活用し、EBMの浸透と推進を行った。</li> <li>科学的な根拠に基づく質の高い医療を提供するため、全診療科で診療ガイドライン等のエビデンスレベルの高い情報を常に収集して診療に活用した。さらにクリティカルパスがある疾患には診療ガイドラインを組み込んだパスを作成して活用している。</li> </ul>		24年度	25年度	26年度	27年度	件数	15件	22件	25件	22件
	24年度	25年度	26年度	27年度								
件数	15件	22件	25件	22件								
<p>④法令・行動規範の順守（コンプライアンス）        市民から信頼される病院となるため、医療法や個人情報保護、情</p>	<p>④法令・行動規範の順守（コンプライアンス）        医療法や個人情報保護、情報公開などの法令等を順守するため、研修会を</p>	<p>●コンプライアンスの順守</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>役職員のコンプライアンス確立のため、毎年「個人情報保護に関する研修会」を実施。不参加者に対するのフォローアップも院内イントラで行った。</li> </ul>										

<p>報公開などの法令等を遵守すること。</p> <p>2 患者サービスの向上  (1) 診療待ち時間の改善等  患者サービス向上の観点から、外来診療の待ち時間及び検査・手術待ちの改善等に取り組むこと。</p> <p>(2) 患者・来院者のアメニティの向上  患者や来院者に、より快適な環境を提供するため、施設の改修・補修を実施するとともに、プライバシーの確保に配慮した院内環境の整備に努めること。</p>	<p>実施する。</p> <p>⑤病院機能評価の更新  平成 25 年度に病院機能評価の更新を受審し、医療機能の一層の充実・向上を目指す。</p> <p>2 患者サービスの向上  (1) 診療待ち時間の改善等  ①地域連携を推進し、地域医療機関と役割分担を行い、外来診療の待ち時間短縮に努める。</p> <p>②医療機器の充実と業務体制の見直しを行い、検査・手術待機期間等の待ち時間短縮に努める。</p> <p>(2) 患者・来院者のアメニティの向上  ①患者・来院者により快適な環境を提供するため、院内へ絵画を展示するほか、施設の改修・補修等を実施する。</p>	<p>●病院機能評価の更新</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>平成 25 年度に機能評価を受審し、更新の認定を受けた。新しい病院機能評価では、一般病院 2 の区分に認定された。【H25】</li> <li>平成 27 年 11 月病院機能評価の「期中の確認」実施報告で、評価項目 B 判定 7 項目について改善活動が実践されているとし良好の判断を受けた。【H27】</li> </ul> <p>●診療待ち時間の改善</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>平成 24 年度より外来診療体制の変更を行い、午後の診察と一部外来での受付を予約再診と紹介状持参の患者のみとした。また「かかりつけ医の推進」「初診時選定療養費の引き上げ」などの措置を行い、当院の地域連携室も活用し、地域医療における機能分担の推進とともに外来待ち時間の短縮に努めた。【H24～】</li> <li>手術室の業務改善により患者入替え時間短縮が可能となった。【H24～】</li> <li>待ち時間を活用し、毎月第 4 金曜日、1 階ロビーにおいて健康教室を開催。慢性心不全認定看護師が講師となり、関心度の高い「高血圧症について」をテーマに実施。救急フェアに因み、外来受診者を対象に「誰もが出来る心肺蘇生について」をテーマに BLS シミュレーションを実施。がん患者やその家族を対象に痛みについて、不安に思っていることへの相談として、がん専門看護師によるがん相談を実施。糖尿病週間では、実際に血糖測定を行い、高値の方へ食事指導などを行った。看護週間では、疾患に応じたテーマを掲げて、ポスターを作成し指導を行った。【H27】</li> <li>CT 検査装置、MRI 検査装置、血管造影検査装置は各 2 台の装置を保有。通常検査業務の時間短縮に努めるとともに緊急時検査にも対応可能となった。【H26】</li> </ul> <p>●患者・来院者のアメニティの向上  主な取り組み</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>平成 24 年度 2 階東病棟と透析室のトイレ改修。3 階東病棟 N I C U の拡張。5 階健診センター超音波診察室へのクーラー設置。</li> <li>平成 25 年度入院準備センターの待合ホールへの移設。点滴センター拡張。</li> <li>平成 26 年度 1 階待合ホールの照明取り替え。地下 2 階厨房の空</li> </ul>
---	--	---

	<p>②患者・家族等に憩いの場を提供するため、院内緑化を推進する。</p>	<p>調設備改修。2階西病棟女子トイレを車椅子対応に改修。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>平成27年度の実績は、手術室内廊下補修、3階北病棟吸入室の壁・天井改修。軽自動車専用駐車場から正面玄関へ向かう階段に手すりを設置。階段縁への転倒防止用の塗装。院内保育園玄関前に転落防止フェンスを設置。</li> </ul> <p>●院内緑化の推進。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>屋上庭園について、園芸ボランティアによる毎日の水やり及びグループによる季節に応じた草花の植替えを行い、緑化推進を行った。</li> <li>平成27年度は、3階屋上庭園に例年より多くプランターを設置し庭園緑化の推進を図った。</li> </ul>
<p>(3) 受診者の利便性向上 受診者の利便性の向上に取り組むこと。</p> <p>(4) ボランティアとの協働によるサービス向上 ボランティア活動がしやすい環境をつくり、ボランティアとの協働を推進すること。</p> <p>(5) 職員の接遇向上 患者や来院者に選ばれる病院、患</p>	<p>③患者のプライバシー確保に配慮した院内環境整備に努める。</p> <p>④患者・家族等の健康に配慮し、敷地内禁煙を継続する。</p> <p>(3) 受診者の利便性の向上 クレジットカード等による医療費の支払いなど、受診者の利便性の向上に取り組む。</p> <p>(4) ボランティアとの協働によるサービス向上 ボランティアが活動しやすい環境をつくり、ボランティアとの協働を推進する。また、意見交換を積極的に行い、ボランティア活動の拡大に努める。</p> <p>(5) 職員の接遇向上 患者や来院者に選ばれる病院、患者や</p>	<p>●プライバシーに配慮した院内環境整備 主な取り組み</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>平成24年度北館地下3階にリニアック患者用更衣室を2カ所設置</li> <li>平成26年度1階栄養相談室の改修</li> <li>4階西病棟男女シャワー室の入口ドアを修繕した。【H27】</li> </ul> <p>●環境整備委員会を中心に敷地内禁煙を継続した。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>敷地内禁煙を啓蒙するため敷地内（外来駐車場）に禁煙に関する案内板を新しく設置した。【H27】</li> </ul> <p>●クレジットカード等による医療費の支払い</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>健診センターでは平成22年にクレジットカード支払いに対応済。総合窓口と急病センターにおいても、クレジットカード支払いへ対応した。【H25～】</li> <li>平成27年9月より銀聯(ぎんれい)カードの取扱いを開始し中国人観光客等にも対応できるようになった。【H27～】</li> </ul> <p>●ボランティアとの協働</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>音楽ボランティア、園芸ボランティア、看護部ボランティア（施設美化、絵本読み聞かせ、衛生材料製作）の受け入れを行った。</li> <li>月1回程度ボランティア委員会を設置して意見交換を行った。</li> <li>ボランティアのための控室を設置した。【H24～】</li> <li>新たに小児科病棟へ紙芝居の読み聞かせを実施。【H27～】</li> </ul> <p>●職員の接遇向上</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>新入職員オリエンテーションにおいて接遇研修を実施。（参加</li> </ul>

<p>者や来院者が満足する病院であり続けるため、職員の接遇向上に努めること。</p>	<p>来院者が満足する病院であり続ける為、全職員が参加する接遇研修等により、職員の接遇向上に努める。</p>	<p>数人計 182 名) 看護部内では経験年数に応じた接遇研修を実施した。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>職員対象の研修を実施した【H24～】</li> <li>看護師補助員必須研修(倫理・接遇について。参加人数 85 名)を実施した。【H26】</li> </ul>
--	--	---

第2 業務運営の改善及び効率化		事業年度評価結果				中期目標 期間の評価
		H24	H25	H26	H27	
		A	A	A	B	A
中期目標	中期計画					
<p>第3 業務運営の改善及び効率化に関する事項</p> <p>1 事務スタッフの専門性の向上 事務部門においては、病院経営の専門的知識や経営感覚に優れた人材を育成し、組織として経営の専門性を高めること。</p> <p>2 予算執行の弾力化と費用節減 法人の会計制度を活用した弾力的な予算執行を行い、効率的・効果的な</p>	<p>第2 業務運営の改善及び効率化に関する目標を達成するためとるべき措置</p> <p>1 事務スタッフの専門性の向上 事務部門においては、病院運営の専門的知識等に優れた人材を育成し、組織として経営の専門性を高める。</p> <p>(1) 院内研修及び外部研修視察等、研修体制を強化する。</p> <p>(2) 学会参加、論文発表を推進し、専門資格取得を支援する。</p> <p>2 予算執行の弾力化と費用節減 (1) 法人の会計制度を活用した弾力的な予算執行を行い効率的・効果的な事</p>	<p>●各年度の研修実績 平成24年度 87名、平成25年度 56名、平成26年度 89名、平成27年度 64名 主な取り組み</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>平成25年度診療報酬改定セミナー参加</li> <li>平成26年度全日本病院協会DPC分析事業「MEDI-TARGET」操作説明会参加、医療経営人材育成プログラム ワークショップ参加など。</li> <li>平成27年度は医療対話推進者養成セミナーなど参加</li> </ul> <p>●各年度の学会参加等実績 平成24年度 18名、平成25年度 14名、平成26年度 25名、平成27年度 29名</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>一般事務職について採用後に資格取得の支援を行い、医療事務2級を取得した。【H24】</li> </ul> <p>●予算執行の弾力化と費用節減</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>事務局各部署にて引き続き複数年契約および契約時期を検討、</li> </ul>				

<p>事業運営に努めるとともに、費用の節減等を図ること。</p> <p>3 収益の確保 診療報酬改定や健康保険法等の改正に的確に対処し、引き続き収益の確保を図ること。</p>	<p>業運営に努める。</p> <p>(2) 適正な後発医薬品の採用促進により患者の負担軽減と法人の費用節減に努める。</p> <p>(3) 薬品、診療材料等の購入価格の低減及び適正な在庫管理を行い、費用節減に努める。</p> <p>(4) その他費用の適正化に努める。</p> <p>3 収益の確保 診療報酬改定や健康保険法等の改正に的確に対処し、引き続き収益を確保する。</p> <p>(1) 救急指定病院として空床を確保するなど、適切な病床稼働率を維持する。</p> <p>(2) 高度医療機器の稼働率向上に努める。</p>	<p>弾力的かつ効率的な予算執行を図り、契約回数の減少に伴う業務の軽減、契約時期の分散など業務の平準化を継続した。</p> <p>●適正な後発医薬品の採用促進</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>毎年度目標を設定し、後発医薬品の使用率を促進した。また採用医薬品を見直し後発医薬品への入れ替えを促進、薬品購入額の軽減に努めた。</li> </ul> <p>後発医薬品使用率の目標と実績</p> <table border="1" data-bbox="1288 406 2072 630"> <thead> <tr> <th>区 分</th> <th>24年度 (品目)</th> <th>25年度 (品目)</th> <th>26年度 (数量)</th> <th>27年度 (数量)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>使用率目標値</td> <td>23%</td> <td>25%</td> <td>60%</td> <td>60%</td> </tr> <tr> <td>使用率実績値</td> <td>24.58%</td> <td>25.9%</td> <td>77.4%</td> <td>81.4%</td> </tr> </tbody> </table> <p>*平成26年度より数量ベース</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>薬品や診療材料について、価格交渉による大幅な削減を図り、全国自治体病院協議会の平均値を上回る薬価値引率を維持した。また保険材料、非保険材料についても業者等との価格交渉、複数メーカー間での価格競合などを行った。在庫管理についても毎月1回各部署へ在庫データを提供し、費用節減に努めた。</li> </ul> <p>※各年度の値引率（総価加重平均） 平成24年度 14.66%、平成25年度 15.46%、平成26年度 16.61%、平成27年度 16.54%</p> <p>●主な取り組み 職員の健康診断の自前化【H24】 県立芸大生から無償提供された絵画の展示【H25】</p> <p>●病床稼働率の維持 各年度の病床稼働率 平成24年度 88.7% 平成25年度 90.8% 平成26年度 89.8%、平成27年度 89.8%</p> <p>●高度医療機器の稼働率実績（単位：件）</p>	区 分	24年度 (品目)	25年度 (品目)	26年度 (数量)	27年度 (数量)	使用率目標値	23%	25%	60%	60%	使用率実績値	24.58%	25.9%	77.4%	81.4%
区 分	24年度 (品目)	25年度 (品目)	26年度 (数量)	27年度 (数量)													
使用率目標値	23%	25%	60%	60%													
使用率実績値	24.58%	25.9%	77.4%	81.4%													

		検査機器・装置名	24年度	25年度	26年度	27年度
		CT 検査装置	15,269	14,932	15,462	14,970
		MRI 検査装置	7,437	7,073	6,644	6,579
		血管造影装置	870	848	1,238	1,462
		RI 核医学装置	935	925	879	860
		放射線治療装置 リニアック	5,279	6,576	5,474	6,624
	<p>(3) DPC/PDPSの機能評価係数の内容を検討し係数を高めるための対策を行う。</p> <p>(4) 診療報酬の請求漏れや減点を防止するとともに、未収金の未然防止対策と早期回収に努める。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 機能評価係数Ⅱについては、平成24年度0.02169、平成25年度からは後発品係数を含め0.0583、平成26年度は0.0545、平成27年度は0.0673となった。係数アップを図るため平成24年度は急性期看護補助体制加算1の(50:1)から(25:1)の取得や感染防止対策加算1取得に取り組み、平成25年度は後発品係数もあり係数値が増加した。平成26年度、平成27年度においても引き続き後発医薬品の積極的採用や、精緻で適切なDPCコーディングに取り組んだ。平成26年度はやや落ち込んだが、平成27年度には、0.0128ポイントの増加となった。全国ランキングでもDPC対象病院1667病院中463位と上位を維持した。</li> <li>●診療報酬の請求漏れや減点防止 <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 診療情報管理士によるDPCに係る情報関連のチェックと関連職員への教育。</li> <li>・ 査定減の内容分析とその対応のため、内容分析保険診療委員会を毎月開催診療データ入力確認時に内容不一致の場合のデータ訂正診療報酬明細書の2重または3重チェックのための職員配置</li> <li>・ コーディング委員会の開催</li> <li>・ 入院業務を委託から一部職員に変更</li> <li>・ 医師および看護師への診療報酬に関する勉強会の実施</li> </ul> </li> <li>●未収金の未然防止対策と早期回収 <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 未収金台帳の作成・管理、電話督促、督促状の発送、訪問徴収、支払相談等の実施。</li> <li>・ 入院予定患者の保険証、前回未収の有無の確認。</li> <li>・ 各種公費、高額貸付制度、出産育児一時金受取代理制度の利用促進。</li> <li>・ メディカルソーシャルワーカーの介入</li> <li>・ クレジットカード払いの対応開始【H25～】</li> </ul> </li> </ul>				